

梅ヶ島 山の声



～ 梅ヶ島出張所通信 ～

コノハスっくん



4月の工事状況をお知らせします

平成30年4月現在の出張所管内の工事状況についてお知らせします。

平成29年度 安倍川水系大谷山腹工事 工期:平成30年3月1日～平成30年12月14日 施工者:(株)白鳥建設

今年度も大谷崩れ崩壊箇所の拡大防止及び流出土砂の低減を目的として、特殊配合モルタル吹付+ロープネット設置による法面对策を行います。



H30年2月末状況:下方より工事箇所を望む。



H30年3月末工事予定箇所状況



H30年3月末モレール終点部

ここがポイント

ICT砂防対象工事として、ドローンによる写真測量及び施工管理を行います。



平成29年度 安倍川水系ウラの沢流路工事 工期:平成29年9月16日～平成30年5月31日 施工者:静鉄建設(株)

本工事はウラの沢砂防堰堤からの流水、土砂を安全に安倍川に流下させるための流路工工事です。昨年度に引き続き、既設の水路に替えて、流れる断面を大きく造り直しています。



現在、水路を据え付ける作業を行っています。



昨年度の施工状況

ここがポイント

施工場所が狭く、製品をクレーンで据え付けることが出来ないため、製品をつかんで運搬、据付することができる機械(リフトローラー)を使用して施工します。



平成29年度 安倍川水系杉の木沢砂防堰堤工事 工期:平成29年10月11日～平成30年5月31日 施工者:(株)白鳥建設

平成25年度から有東木地区で着手した杉の木沢砂防堰堤の継続工事です。平成30年完成を目指して施工しています。



H25年度から施工中の杉の木沢砂防堰堤 (H29年9月末状況)



H30年3月末現在、施工状況(上流右岸側より)



H30年3月末現在、施工状況(上流左岸側より)

ここがポイント

コンクリートのパネルを型枠にして施工します。これにより、コンクリート打設後の型枠外し作業が省かれ、工期の短縮と工費の削減が図れます。また、パネルのデザインも多彩なため現場にあったパネルが選べます。



その他、平成30年度の工事です。

平成29年度 安倍川水系砂防管内整備工事 工期:平成30年3月27日～平成31年3月31日 施工者:(株) 新村組

出張所管内における砂防施設の維持・修繕を行う工事です。

H30事業概要について

本年度の安倍川上流域における砂防の事業概要 です。

砂防関係【安倍川上流部】

一級水系安倍川の玉機橋（河口から約23km）より上流145.6km²の流域で大谷崩をはじめとした重荒廃地からの土砂により引き起こされる土砂災害を防止するため、砂防事業を実施しています。

【主な事業内容】

- 大谷崩対策 (①)
 - ・安倍川上流の大谷崩において、斜面崩壊防止のため山腹工を継続します。
- 土石流危険渓流対策 (②③)
 - ・新田地区において、ウラの沢砂防堰堤の流末処理として流路工を継続します。
 - ・有東木地区において、土石流対策のため砂防堰堤工群を継続します。



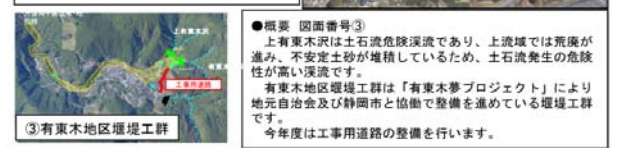
7

■図面番号 安倍川砂防 ①大谷山腹工 ②ウラの沢流路工事 ③有東木地区砂防堰堤工群

●概要 図面番号 ①
 安倍川上流の大谷崩は日本三大崩れの一つに数えられる大規模崩壊地であり、現在も斜面侵食により崩壊地が拡大するとともに、流出した土砂が下流河川の河床を上昇させるなど、洪水氾濫による甚大な災害を発生させる恐れがあります。このため、土砂流出を抑制するよう山腹工を実施しています。



●概要 図面番号②
 新田地区のウラの沢は土石流危険渓流であり、上流域では荒廃が進み、不安定土砂が堆積しているため、土石流発生の危険性が高い渓流です。砂防堰堤は完成済みであり、今年度は流末処理として流路工を実施しています。



●概要 図面番号③
 上有東木沢は土石流危険渓流であり、上流域では荒廃が進み、不安定土砂が堆積しているため、土石流発生の危険性が高い渓流です。有東木地区堰堤工群は「有東木夢プロジェクト」により地元自治会及び静岡市と協働で整備を進めている堰堤工群です。今年度は工事用道路の整備を行います。

8

静岡河川事務所HPに掲載されている「平成30年度 事業概要」より抜粋しています。
 アドレス:<http://www.cbr.mlit.go.jp/shizukawa/>

編集後記

梅ヶ島出張所へ着任し2年目を迎えました。
 本通信もしばらく休刊していましたが、継続して情報発信をしていきます。
 本通信も発行を始めて6年目となります。
 本年度もどうぞよろしくお願いいたします。



梅ヶ島出張所

皆様からの情報やご意見を募集します。
 Tel:054-269-2003、E-mail:http://www.cbr.mlit.go.jp/shizukawa/05_jigyou/02_office/toiwase.html